

# 令和4年度 札幌国際芸術祭実行委員会 事業報告書

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)



## 1 SIAF2024 の開催準備

### (1) テーマ、コンセプト、会期等の決定

令和4年6月、テーマ「LAST SNOW」及び会期（令和6年1月20日～2月25日）を発表。令和5年2月、一部参加アーティストや連携企業、メインビジュアルや市民参加プログラムを含む企画概要を発表した。

### (2) 実施体制の構築


小川ディレクターの構想を実現するためのキュレーター、デザイナー、専門スタッフの選定など、SIAF2024 開催に向け実施体制を構築した。SIAF2024 では特に地元人材を積極的に登用し、札幌ならではの芸術祭を作り上げるとともに、外部の専門人材が地元人材と協働することで、地域にノウハウを残せる体制の構築を目指している。

### (3) 開催計画の検討

テーマ・コンセプトに基づいた具体的な展示内容や実施プログラム、参加アーティスト等を検討した。また、令和4年11月に6会場を発表し、それらの使用会場を踏まえた周遊促進施策など、開催計画の検討を進めた。

## 2 広報プロモーション

### (1) 国内外への情報発信・PR

項目	概要	活動日・会場
ア 記者発表	<p>SIAF2024の全体コンセプト、企画概要、参加アーティスト、ビジュアル、市民参加プログラム等を発表。</p> 	<p>令和5年2月14日 東1丁目劇場施設</p>
イ プレスリリース	<p>記者発表やイベント情報などのプレスリリースを実施。また、世界最大級のオンラインアート・プラットフォーム「E-flux」や、ユネスコ創造都市ネットワークのポータルサイトを通じた海外発信を実施。</p>	—
ウ 広報展開	<p>令和5年2月の冬季展開に合わせ、街頭ビジョンやサインページ等でSIAF2024プロモーション映像を放映。</p>	市内中心部16カ所

### (2) SIAF2024 特設ウェブサイトの構築、SNS を活用した情報発信

スマホユーザーや SIAF についてよく知らない方にも手軽に情報が届くよう SIAF2024 特設ウェブサイトを作成。ロゴ等のビジュアルを打ち出したり、各ユーザーの興味に合わせたアイコンを作成するなど、ポータルサイトにはないデザインや仕組みを新しく構築することで、より SIAF2024 に興味をもってもらえるよう取り組んだ。

また、冬季イベント開催に合わせ SNS 広告の出稿を実施。Instagram での展開に合わせた動画広告を制作・配信することで、若年層を含む幅広い市民にアプローチした。



▲SIAF2024 特設ウェブサイト



▲サイトはこちらから







▲SNS 広告

### 3 SIAF 普及事業

#### (1) SIAF2024 プレイベント

SIAF2024 ディレクターが札幌市民に直接語るイベントや、開幕を1年前に控えた令和5年2月に、SIAF2024に向けた機運醸成や冬季屋外展示の実証実験のため、展示プログラムを中心とした様々な取組みを行った。



概要	活動日・会場	参加者数
<p>ア <u>ディレクターズトーク「Art for Future アートを通して未来を探る」</u>            テーマ発表後の令和4年6月26日に、小川ディレクター就任後初のトークイベントを開催。アルスエレクトロニカの実践紹介を入口に、SIAF2024のテーマやコンセプトを市民に周知した。</p> 	<p>令和4年6月26日 SCARTS</p>	<p>65名</p>
<p>イ <u>札幌国際芸術祭2024を先取り！in スマイルリンクさっぽろ</u>            冬の魅力を伝えるイベント「スマイルリンクさっぽろ」において、SIAF2024参加アーティスト「ENESS」の作品「STEM・バイ・STEM」を展示。SIAF2024プレイベントとして多くの来場者にSIAFを知ってもらうきっかけとするとともに、初の冬季開催に備えた屋外展示の実証実験として実施。</p>  	<p>令和5年2月3日 ～2月12日 札幌市北3条広場 [アカプラ]</p>	<p>34,149名 (主催者発表)</p>

<p>ウ <u>SCARTS×SIAF ラボ 冬の展覧会 2023</u></p> <p>札幌文化芸術交流センターSCARTS と SIAF ラボが共同で実施する展覧会。5 回目となる今回は、令和 3 年～4 年の大雪を除雪車の軌跡や雪堆積場の映像から振り返るコンテンツや、吹雪とレーザーによって風の可視化に取り組んだ映像作品を展示。また、NoMaps 協力の下、雪国の暮らしをテクノロジーで克服しようとするスタートアップ企業の取組みを紹介した。</p> 	<p>令和 5 年 2 月 4 日 ～2 月 14 日 SCARTS</p>	<p>2,828 名</p>
<p>エ <u>アプリ DE スタンプラリー</u></p> <p>専用アプリを使ったデジタルスタンプラリーを実施、さっぽろ雪まつりや上記イベントを起点とした市内中心部の周遊促進を図った。</p> <p>経) 経済戦略推進部イノベーション推進課が実施する「Local Innovation Challenge HOKKAIDO 2022」採択企業との協働企画。</p> 	<p>令和 5 年 2 月 3 日 ～2 月 12 日 大通公園周辺 ・スマイルリンク さっぽろ ・冬の展覧会 2023 ・さっぽろ雪まつり会場 ・SIAF ラウンジ (札幌市資料館)</p>	<p>—</p>
<p>オ <u>配信トークイベント「SIAF2024 全体ビジョン&amp;アーティスト 第 1 弾発表」</u></p> <p>SIAF2024 記者発表の同日夜、ディレクターと各会場担当が、発表になったばかりの企画内容について詳しく掘り下げる生配信トークを実施。</p>	<p>令和 5 年 2 月 14 日 オンライン開催</p>	<p>78 名</p>

<p>カ <u>教育喫茶はじめます～アート・サイエンス・テクノロジー×教育のいま～</u>          SIAF2024 のキーワードのひとつ「教育」を軸に、地域でアートやサイエンス、テクノロジーを実践するスピーカーと、地域と教育に携わる特別なパネリストを招聘したトークイベントを開催。</p> <p>【パネリスト】</p> <p>蛇穴 治夫（北海道教育大学学長）、三浦 啓子（北海道教育大学岩見沢校准教授美術文化専攻）、檜田 英樹（札幌市教育長）、小川ディレクター</p>	<p>令和5年2月18日          さっぽろテレビ塔</p>	<p>38名</p>
--	--	------------

## (2) SIAF ふむふむシリーズ

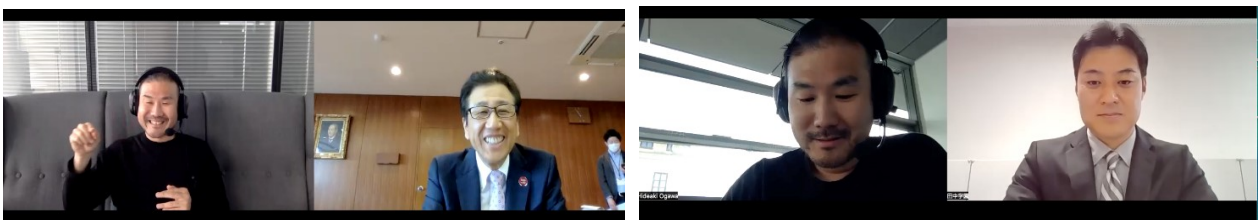
令和3年度から実施している、市内の美術館や文化施設等と連携して実施する鑑賞プログラム。令和4年度は、札幌・北海道で新たな取り組みとして、視覚障がい者や聴覚障がい者向け鑑賞プログラムや、サイエンスやテクノロジーの観点から、新たに札幌市青少年科学館と連携した企画を下記のとおり実施した。

概要	活動日・会場	参加者数
<p>ア <u>“視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ”×札幌芸術の森美術館×SIAF</u></p> <p>視覚障害者向け鑑賞プログラムを展開する団体“視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ”と連携し、芸術の森野外美術館でのワークショップ及び報告会を実施した。</p>  <p>▲野外美術館散策の様子</p>  <p>▲報告会</p>	<p>オンライン          参加：92回線（同時視聴）</p> <p>オンライントークセッション 美術を耳から目から体験してみよう          : 令和4年7月23日</p> <p>美術を耳から目から経験してみよう          : 令和4年8月27日          芸術の森野外美術館</p> <p>ゲイモリぶらぶらしてみた報告会          : 令和4年8月28日          SCARTS</p>	<p>14名</p> <p>会場：17名          オンライン参加：119回線（同時視聴）</p>
<p>イ <u>“手話マップ”×北海道立近代美術館×SIAF</u></p> <p>聴覚障害者向け鑑賞プログラムを展開する団体“手話マップ”と連携し、北海道立近代美術館での鑑賞プログラムを実施した。</p>	<p>シュワー・シュワー・アワーズ in 北海道立近代美術館－手話と日本語で楽しむ鑑賞会－</p>	<p>27名</p>

	<p>令和4年10月15～16日 北海道立近代美術館</p>	
<p>▲手話にて作品の解説を受ける参加者</p>		<p>計1,143回 再生 (令和5年 3月31日時点)</p>
<p>ウ <u>札幌市青少年科学館でふむふむ</u> サイエンスやテクノロジーの観点から札幌市青少年科学館と連携し、小川ディレクター、科学館スタッフによる3本の解説動画をYouTube配信</p> 		

**(3) ポッドキャストプログラム「SIAF Director`s Lounge」**

小川ディレクターが毎回異なる分野のゲストを迎え、SIAF2024のキーワードとなる「未来」について語り合う20分程度の音声番組。秋元市長やアート関係者、田中学園理事長の田中賢介氏など、全9本を配信した。



**(4) 既存事業との連携プログラム**

ア さっぽろアートステージ 2022 (広報ブース展開)

チカホ北3条交差点広場にて、プロモーション動画を放送するとともに、バナーの設置やパンフレットを配架した。

イ 札幌国際芸術祭 2024 を先取り! in スマイルリンクさっぽろ  
「STEM・バイ・STEM」を展示した。(再掲)

## 4 SIAF ラウンジの活用

### (1) SIAF ラウンジにおける情報発信

SIAF 関連ウェブサイト、公式 YouTube の動画、公式 SNS アカウント及び冬のアートイベント関連サイト等の情報をとりまとめ、フリーペーパーや掲示等によりラウンジ内で公開した。




また、SIAF ラウンジの施設等や実施計画、展示に関する情報について、ホームページや SNS 等にて情報発信を行った。



### (2) SIAF ラウンジオンライン

令和 2 年 10 月から始まった SIAF 関心層向けの登録制オンラインサロンで、毎月一度、60 分～90 分程度開催している。令和 4 年度は、過去の SIAF 参加アーティスト等をゲストに招き、全 12 回延べ 209 名の参加があった。

## 5 SIAF ラボの活動

項 目	概 要
<p>(1) S.I.D.E. (サイド) プロジェクト</p>	<p>SIAF ラボが研究機関や外部アーティスト等と連携しながら、さまざまな領域の専門家とのネットワーク形成及び新たな表現形態を模索するプロジェクト。</p> <p>「孤島を丸ごと楽器化する」ことを目指した幻のコンサート計画《Island Eye Island Ear》の北海道での初演を目指し、リサーチや公開実験、ドキュメント展示を行った。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>▲リサーチ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>▲公開実験</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <p>▲ドキュメント展</p> </div>

(2) SCART × SIAF ラボ 冬の展覧会 2023	SCARTS と SIAF ラボによる共同プロジェクト（再掲）
--------------------------------------	---------------------------------

## 6 人材の育成

### SIAF 部

アートマネジメント等のスキルを習得することができる人材育成プログラムとして、参加者にアートシーンや SIAF をより深く知ることができるような取り組みを行っている。

令和4年度の部員数は22名。月に一度の定例ミーティングの他、冬季イベントにおける鑑賞サポートプログラムを実施し、SIAF スクール（※1）における「ふむふむプロジェクト（※2）」の構想を検討するにあたり、効果的な検証を行った。

※1 会期前から SIAF を楽しみ、体験できる場を提供しながら、会期中の実践に繋げていく各種体験型プログラム。

※2 SIAF2024 の会場で実施するボランティア活動に協力いただける方を対象とした研修プログラム。